

自閉症 スペクトラム児

アスペルガー症候群など自閉症スペクトラム児を
どう理解し援助をしたらよいのでしょうか？

とうじょう めくむ 東條 恵 新潟県はまぐみ小児療育センター 診療部長

視点を持つと見えてくる 自閉症スペクトラム

自閉症というと、ある一つのイメージ、つまり重度知的障害と重度自閉症状の組み合わせをイメージする人が多いかも知れません。言葉が遅れ、マイペースで視線をあわせず、自分の世界に浸って遊んでいる独特の子どものイメージです。しかし現在の考え方は違います。**自閉症スペクトラム(連続体) Ⅱ 広汎性発達障害(以下自ス)**という言葉が認識されてきました。その意味は、知的障害が重度で典型的な自閉症を持つ古典的な自閉症の方から、知的障害を持たない自閉症状の軽度の方を含め、同一線上の連続体として捉えることができるという考え方です。この概念は、一見問題ないと判断されてしまう場合がある軽度の方を含めての、支援を考える上で役に立っています。

判断する視点を持つことができれば、軽症の人に対しても「なるほど彼は自スの方だ」と理解できるので「わがまま・マイペース・我慢できない・落ち着きのない・変わった・こだわりを持つ」子どもに見えてしまうでしょう。そして援助対象とは認識されず、多くの子どもが受けている子育てが路線、つまり叱責・批判による子育てが行われてしまうことになります。

症状の軽い重いがあるとしても、自スに共通しているものがあります。それは自分の周囲の情報を処理し読みとり、その質や内容を理解する、感じるものが苦手であることです。人間は自分を取り巻く周囲の情報を集め、処理し、自分にとつての意味をつかみ、対処していくわけです。これを行うために、様々な感覚器官を

使います。例えば眼で相手の表情や態度を読みとり、耳を使って相手の言葉の裏にある意図を読みとるなどです。しかしこの過程がどうもうまくいっていない、特に他の人間の心を理解することに不具合を生じている人たちがいることに気づきます。

これに関しては、「心の理論」という人の心・気持ちを読み、人と気持ちを共有するというシステムを、多数の人(定型発達した多数派)は生まれながら持っていると言われています。一方自スはこれが生まれつき苦手である、つまり「心の理論が不調である」という切り口です。

この観点で見ると、これまで見えてこなかった軽度の自ス児の存在に気づきます。他からみるとひたひたとした心の交流がなかなかできないと感じる子どもと言えます。その代表が知的障害のないアスペルガー症候群(三歳で二語文あり。大きな言葉の遅れなし)や高機能自閉症(三歳で二語文なし。言葉の遅れあり)という子どもたちです。

自閉症スペクトラム児の心 — 支援のためのストーリー —

心の理論システムがうまく動いていない中では、周囲の人の心・考えが読みにくく、つまり周囲の人が自分にとって安心できる人かどうか分かりにくいと思われれます。人とうまく付き合えない中で、周囲への不安・戸惑いが強い幼児期を経験し、その後軽減しつつも同じ要素を持つ

て成長していくと推測されます。そのため周囲のことが良く分からない中で、突然のことにパニックを起したり、フリーズしたりする(固まる)場面が出てくると推測されます。

このような対人関係の困難は自スの基本症状といえます。人と社会性を持つてのお付き合いは苦手で、友達を求める力は弱く、目線を合わせるのが苦手でしょう。目線を合わせると、声・態度・顔の表情といった情報の多さにたじろいでしまうので、それを避けようとして目線をさげるようにもみえます。そして幼少期には人と人との間に存在する言葉への気づきや学習は遅れるでしょう。また人の心を読むことが苦手なため、人が自分と違った考えを持っていることに気づきにくく、自己中心的な考え方や一方的な話し方になり、言葉のキャッチボールができなくなりやすいと言えます。そして、不安・戸惑いがある中では自分の安心できる狭い世界で生きようとするのは自然でしょう。幼少期では自分の体で遊ぶ、玩具の一部にこだわるなど、自分なりの決まり(順番や場所へのこだわり)の中で安心できるようです。学童期では休み時間は一人図書室で本を読むなどもよくみられます。

このようなストーリーで、自スの症状として①対人関係の困難、②コミュニケーションの困難、③想像性の困難といわれる狭い世界で生きようとするスタイルの「三つ組」が成立すると考えることもできます。「心の理論が俊敏に動いている多く

の子どもたち」と「心の理論が不調な自ス兄」は、互いに違った見方で周りの世界をみている可能性がありません。違ったシステムの中で、獲得してきた心の世界は異なっているであろうからです。自ス兄と非自閉症児・者は、互いに獲得してきた内容が異なる中で、交流を通して理解しあうことが必要になります。

自閉症スペクトラム児への援助 ——基本は「学習」

心の理論がうまく動いていないならば、人はどう感じ、考えるのかといった多数派が作りあげてきた文化（行動様式、言語、習慣・風習）を学んでもらう必要があります。多くの子どもたちは暗黙の了解の中で理解していくことが多いのですが、自ス兄はうまく学習できないので、一層言葉で学んでもらう必要があるでしょう。支援者側は、怒る・叱責するといったことに時間とエネルギーを浪費せず、教えることに力を注ぐべきであると言えます。自ス兄は怒られたことは分かりますが、場の雰囲気を読み、内容を論理的に理解していないことが多いと思われるからです。

ここに自閉症スペクトラム者への援助の基本があると云えます。「学習」です。例え話としては、「外国人の方に日本の言葉を学習してもらって、行動様式を学習してもらって、文化・風習を学習してもらって、日本社会に適応するためには必要である。

上手く動いてもらうためには、これらの学習を保障する必要がある」という構図と同様だともいえます。

さて具体的にどの様な「学習内容」でしょうか。以下見ていきたいと思います。

①「心の理論」の不調に対して

人はあなたとは同じことを考えているのではないということを言葉で伝える必要があります。言葉ではない手段を使う必要がある場合もあります。絵や文字カードでこちらの意図を伝えたり、簡単な人の絵に吹き出しをつけて人の考えを伝えるなどです。簡単な言葉を併用しつつ、良い行動へは「褒める」、不適切行動へは「意識的無視」といった態度で示すことも必要な場面はあるでしょう。そしてスケジュールの「事前説明」をするなど、先の見通しをつけることで、周囲への「不安・戸惑い」を軽減していくことが必要になります。

②対人関係の困難に対して

親しい養育者との愛着関係の改善を具体的に目指して、昔ながらの遊びを通して共有感を築く必要があります。人との距離感の取り方、どの様につき合っていくべきかは難しい課題です。三、四人の小集団でのゲームなどを通してのソーシャルスキルトレーニングが学齢期では必要な場合が多いのです。

③コミュニケーションの困難に対して

語学教育が必要です。初期には実物、写真・絵・文字カードなどの視覚的支援が、言葉の覚える時

期には特に必要でしょう。全ての物には名前が付いていることを理解し、単語力が増大し、二語文などを使い始めていけば、簡単な話し言葉で対応することが必要でしょう。その後は話し言葉や書き言葉を使つての説明を通し、言葉の概念を獲得していったらうことになりそうです。意外に難しい言葉を使つているアスペルガー症候群の子どもも、言葉の意味を質問してみると、理解していないことが多いです。会話の中で分からない単語があり、戸惑っているでしょう。コミュニケーションスキルトレーニングが必要と言われる所以です。

④想像性の困難に対して

こだわりが見られる場合、それは不安解消手段と理解すべきです。外出や集団に入る時、お守りグッズを持つていないと不安になる子どもは多くいます。もちろん成長に伴い「趣味趣向としてのこだわり」もあります。これらは迷惑でない限り保障すべきです。少しずつ遊びの範囲を広げ、他人と関わる試み・誘導を行い、その中で成功体験が必要でしょう。

⑤二次障害を防ぐ

自スの人は、多数派の社会の中で戸惑っています。どう話しかけたらいいか分からず、どう振る舞っていいか分からず、自分なりの判断で動いてみると上手くいかず、他人からは批判されることが多い中で、自信を失っている人が多いと推測されます。その中では、支

援者・養育者側からの賞賛、上手くいったことを評価していく態度が是非とも必要です。

⑥生活環境の立て直し

これらを家庭の内外で実践するには、育児環境を見直す必要があります。テレビ・ビデオ・テレビゲームによる育児は、制限する必要があります。テレビ画面を視聴しながらの食事は七割の家庭で見られますが、これは止めていただきたいことです。食事時間以外でも朝はテレビをつけず、一日二時間以内にする等に努めていただきたいものです。人とのつき合いや会話の練習を、家庭内でも行っていたきたいからです。小学校入学頃から多くの子どもは、テレビゲームにはまっています。これらの影響で、社会的な人とのつき合いの苦手を強めているアスペルガー症候群の子どもは多くいます。ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルは年齢が上がっても必要なのです。それらを丁寧に練習するのは家庭内が基本的な練習・学習場所といえます。

大きな集団に適応しようとすることは、辛いはずですが、情報過多にならないですむ、三、四人の小集団の中で友達とのやり取りを楽しみ、成功体験を積み重ね、自信をつけることが必要です。また集団のなかでは、自ス兄へのサポーター役の子どもを配置するような配慮が大人側に必要です。「環境調整」は大事なのです。